

# 天沼小だより

校長 大里 忠弘



## 高学年の児童に支えられた運動会

10月23日(土)好天のもと、運動会が無事行われました。昨年度に続き、コロナ感染症対策を講じての開催となり、保護者の皆様には数々のご不便をおかけしました。短時間プログラムということで、徒競走、リレー、学年ブロックごとの表現活動のみ、お昼前には全競技、全演技が終了。あっという間の運動会でした。

大玉転がしのような遊競技を入れることもできたかも知れないという声も聞かれました。当日のプログラム進行だけで言えば、時間的な余裕はありましたが、運動会は当日を迎えるまでの準備期間に教育的意義があります。十分な準備を重ね本番に備えるからこそ、たとえ短時間でも子どもたちは満足と感動を覚えるのです。演目を増やせばそれだけ準備の時間を要します。各教科の学習時間を割くこととなります。限られた時間の中で、児童自身が満足し、成長できる運動会を開催したいと考えてきました。

コロナ対策のために多くの時間が奪われ、本来の学習のために費やす時間が制限されてしまった中、今年の運動会は、短期集中、少種目集中で、十分にその学習成果を挙げたと確信しています。高学年の児童を中心に、運動会のための諸準備、当日の運営をみごとに支えてくれました。

## 鳩の雛、健やかに育て

先日、職員室前の庭、木立の中に鳩の巣を見付けました。用務員さんがキンモクセイの剪定をしてくださり、込み入った枝を落としたところ、それまで枝に隠れていた巣が見えるようになりました。危うく、その枝ごと切り落とすところだったそうです。

そう言えば、校長室の窓からも鳩がキンモクセイの木に潜り込む姿をよく見かけていました。羽が大分生えそろった雛が2羽、既に狭くなってしまった巣の中にじっとしていました。今はその姿もなく、無事に巣立ったと信じています。

住宅街では鳩の糞や鳴き声の苦情も後を絶たないようですが、ここ天沼小の庭では、鳩も安心して子育てができたようです。このキンモクセイは、天沼小だより21号でお知らせした本校のビオトープの中に立っています。子どもたちが虫取りに興じていた頃には、枝の中で人知れず子育てに励んでいたのですね。

子どもたちが安心して学べる空間で、鳩も安心して雛を育てることができたのですね。2羽の雛も、カラスなどの天敵からうまく逃れ、逞しく成長して欲しいと願います。

